イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

今村豊

目　的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁業関係者に漁海況情報として提供を行い、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会を開催し、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鰺ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）におけるイカ類の月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とした。

結　果

1. 学習会の開催

平成30年4月24日に八戸市で中型イカ釣り漁船漁業者を対象に学習会を開催し、操業船の漁獲結果から推定した前漁期の状況、資源の状況等について説明した。また、5月22日に東通村（東通村連合研究会）、6月8日に泊漁業協同組合において、小型漁船漁業者を対象とする学習会を開催し、スルメイカの前年の漁況、国立研究開発法人水産研究・教育機構の調査結果、本県の漁況について説明した。

2. 漁獲動向調査

(1) 近海スルメイカ

2018年度の近海スルメイカの水揚動向について、主要港全体でみると、水揚げ量は1,062トンで、前年比47%、近10年平均比18%であった。また、CPUEは139.7kg/隻で、前年比70%、近10年平均比33%であった。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鰺ヶ沢・深浦港）の水揚量は149トンで、前年比39%、近10年平均比14%であった。また、CPUEは239.6kg/隻で、前年比88%、近10年平均比51%であった。大畑港の水揚量は105トンで、前年比41%、近10年平均比10%であった。また、CPUEは62.3kg/隻で、前年比53%、近10年平均比18%であった。白糠港の水揚量は271トンで、前年比60%、近10年平均比25%であった。また、CPUEは87.7kg/隻で、前年比73%、近10年平均比34%であった。八戸港の水揚量は537トンで、前年比47%、近10年平均比19%であった。また、CPUEは244.1kg/隻で、前年比83%、近10年平均比39%であった。

(2) 船凍スルメイカ

最近5年間(2013～2017年)の動向をみると、延べ航海回数（水揚回数）は107回から195回で、平均142回となっている。2018年は90回で、前年比84%、近5年平均比63%となった。また、同期間の八戸港における船凍スルメイカの年間水揚量は6,396トンから12,848トンで、平均9,619トンとなっている。2018年度は5,031トンで、前年比78%、近5年平均比52%となった。1航海当りの水揚量は60トンから77トンで、平均67トンとなっている。2018年度は56トンで、前年比94%、近5年平均比89%であった。

発表誌：平成30年度イカ類漁場開発調査資料第44号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集　令和2年9月